

花粉症のドライバーには、つらい季節……



2月になると花粉に敏感な方はすこしづつ症状が出てくる頃ですね。

スギ花粉の飛散は2月下旬からといわれ、今年は例年より「多い」予想になっています。花粉症の症状はさまざまですが、運転にも影響がでることがあります。

花粉症の症状が運転に与える主な影響



- ・ 視界・視野の低下
目のかゆみやかすみ、涙目などにより、視界や視野が確保しにくくなる
- ・ 誤操作、前方不注意
くしゃみの反動でハンドル・アクセル・ブレーキ操作を誤るおそれがある
くしゃみの際に目を閉じてしまうが多く、前方不注意につながる
- ・ 集中力・判断力の低下
眠気やだるさがあると、過労状態での運転に近い状況になることがある



花粉症薬の服用が運転に与える主な影響



- ・ 眠気、倦怠感
副作用として眠気や倦怠感が生じる場合があり、居眠り運転の危険性が高まる
- ・ 集中力・判断力の低下
眠気の自覚がなくても、集中力や判断力が低下する場合がある

このように、花粉症のドライバーは、花粉症でないドライバーと比べて事故のリスクが高いといえます。

対策は簡単ではありませんが、次の点を心がけましょう

- ・ 車内に花粉を入れない工夫をする
花粉のつきにくい衣類やバッグを選ぶ
乗車前に衣類の花粉を払い落とす
エアコンは内気循環モードに設定する



花粉症の症状があると、通常より運転のリスクは高くなります。症状が出た場合は、いつも以上に『スピードを落とす』『車間距離をあける』『時間に余裕をもつ』など、安全運転を心がけてくださいね。

